

# 令和6年度社会福祉法人ないえ福祉会事業計画

## 事業方針

令和6年度障害福祉サービス等報酬改定が行われました。今回の報酬改定は、法人が関係する全事業で見直しが行われ、地域移行の推進や具体的なサービス提供時間、工賃の額などで、より評価される報酬となりました。加算等の内容も具体的になり、重度障害者支援加算の職員配置の見直し、入浴支援加算、通院支援加算の創設など支援の実態に合わせて評価する仕組みへと大きく変わりました。支援を報酬へと繋げ、安定した法人運営ができるようにしたいと思います。入所事業では、数年の計画で行っている暖房配管設備の改修工事のほか、旧職員住宅の解体なども計画的に進めていきたいと思っています。

就労事業では、工賃規程や職員配置の見直し、培養室の改修に向けた準備を進め、工賃の更なる向上を目指したいと思います。

共同生活援助では、単身生活を希望する利用者に向けた支援のほか、障がいの重たい利用者も地域で生活ができるよう支援技術の向上に努めていきたいと思っています。

令和5年度は業務の省力化を図り、インターネットバンキングや勤怠管理システム、みみずくスマートレジなどの新たなシステムを導入しました。今後も業務省力化に向けた取り組みを継続します。

人材確保については深刻化しており、教育実習を受け入れてきた空知管内の短大も学生募集の停止をするなど、新卒採用についてはますます厳しい状況です。高校生を対象とした求人のほか、70歳までの就業機会確保の義務化に備え、定年延長や再雇用規程の見直しについても検討していきたいと思っています。

## 中・長期計画

### (1) 入所事業

- ・業務省力化に向けたICT技術等の調査や導入
- ・暖房設備の更新
- ・多床室の改修とナースコールの設置に向けた準備
- ・地域交流ホームの改修工事に向けた検討
- ・入所施設建て替えに向けた資金の積立
- ・公用車の計画的な更新と必要に応じた増車

### (2) 就労事業

- ・利用者の高齢化を踏まえた事業の検討
- ・就労移行支援新規利用者募集継続
- ・新たに創設される就労選択支援サービスの情報収集
- ・培養室建て替えの検討

### (3) 共同生活援助事業

- ・公用車の計画的な更新（赤い羽根共同募金 助成事業申請中）
- ・日中サービス支援型共同生活援助事業の基盤整備作り
- ・サテライト型住居の検討
- ・フビ暖房設備改修についての検討

### (4) 居宅介護事業

- ・新規利用者募集、ニーズ調査
- ・新規登録ヘルパー募集継続

## 具体的事業

### 1. ハード面の事業について

事業ごとに必要な修繕や改修等を計画的に行っていきたいと思います。また、引き続き災害や感染症に強い施設作りを目指し、利用者が安心して生活できるよう環境の整備に努めます。

- ・各グループホームのメンテナンス
- ・各作業場等のメンテナンス
- ・公用車の計画的な更新
- ・旧職員住宅の解体

### 2. ソフト面の事業について

職員の処遇向上や働きやすい環境づくりのため、就業規則の見直しや業務効率化・省力化などの取組を継続します。また、人材確保に向けた取り組みや工夫等について、積極的に情報収集をしていきたいと思います。

- ・賃金改善のため処遇改善加算の取得、配分方法の見直し
- ・定年制度、再雇用制度の見直し
- ・職員の負担軽減、業務効率化を目的とした介護ロボット等の導入検討
- ・新卒者確保に向けて奨学金制度等の情報収集
- ・職員のスキルアップのための他事業所間職員交流

### 3. 日中活動系事業について

令和6年度の利用者は就労継続支援B型事業43名、就労移行支援事業2名でスタートします。令和6年度は、就労継続支援B型事業、就労移行支援事業、就労定着支援事業を本来の多機能型としての一体的な運営に戻すことで、B型の工賃向上と、移行利用者数の低迷を補いながら、一人ひとり充実した生活が送れるよう、要望を取り入れながら幅広く活動していきたいと思っています。報酬改定についても知識を深め、算定できる加算等は逃さず取得して、よりよい事業所運営を目指します。

B型では既存の椎茸培養室が老朽化しており、建て替えを検討しています。また、菌床数を2割減とし、利用者の高齢化に配慮したより安全な作業環境を整備すると共に、作業効

率を見直して行き届いた支援を目指します。

就労移行は、雨竜養護学校、美唄養護学校からそれぞれ1名ずつ利用者を迎え入れることが決まっています。新たなメンバーと就職に向けた訓練を継続していきます。

就労定着支援の利用者は8名です。職場やご家族と連携して支援していきます。

生活介護事業の令和6年度の利用者は、昨年7月より長期的にショートステイを利用していた男性1名を加えて46名となります。

新型コロナウイルスが5類感染症となり、活動に広がりがでてきました。一定の感染対策と体力維持のための健康活動を継続しながら地域との交流を深め、行事や旅行など外出の機会を増やしていきたいと思います。利用者の要望を聞きながら積極的に新しいことも取り入れ一緒に活動を楽しんでいきたいと思います。

今回の報酬改定では、サービス提供時間に応じた基本報酬が設定されました。医療的ケアが必要な方への入浴支援に対する加算も創設されるなど、具体的な支援が評価されることとなりました。個々のニーズに合わせて必要な支援ができるように体制作りをしていきます。

#### 4. 居住系事業について

施設入所支援事業は、37名で新年度を迎えます。現在、長期的にショートステイを利用している男性1名を迎えるため、指導室の改修工事を行っています。引き続き、生活の質の向上のため、女性棟の個室化についても検討していきたいと思います。また、強度行動障害の方への専門的支援技術の向上や高齢利用者への介護技術向上に努め、必要とされる支援ができるチームで利用者の生活を支えていきます。

今回の報酬改定では、地域移行を推進するため定員区分や重度障害者支援加算の職員配置が見直されました。また、医療的ケアが必要な方が増えていることを踏まえ通院支援加算が創設されました。地域移行に必要な支援や職員配置の見直し、記録の整備などを進め、実際に行っている支援を報酬につなげられる様に取り組んでいきたいと思います。

共同生活援助事業は、定員42名中40名で新年度を迎えます（男女棟共に1室空室）。高齢化による体力的な不安、持病の悪化や罹患と生活の場を変更せざるを得ないケースが目立つようになりました。入居希望の問い合わせは数件あり、現在は積極的に見学や体験の受け入れに対応しながら、新たな入居者を迎える予定です。

今回の報酬改定では、グループホームから希望する一人暮らし等に向けた支援の評価をメインとしつつ、重度障害者の受け入れも評価され、サービスの支援内容や経営の実態を踏まえた基本報酬の見直しがありました。みどり荘としては、人員配置に苦慮することとなりますが、希望する皆さんがグループホームで生活できることを願い、取りこぼしなく加算を取得して新しい流れに乗っていききたいと思います。また、一人暮らしに向けた支援についても、今一度意識して取り組みます。一人一人の意思確認を継続しながら、必要なスキルを身に付けてステップアップできるようにサポートします。

ハード面では、令和5年度も赤い羽根共同募金施設活動支援事業（車輛整備）へ申請し入れ替えを検討しています。入れ替えが必要となる車両は2台で、どちらも購入から10年を経過し走行距離も13万km（軽自動車）、18万kmを超えており、今回で三回目となる

申請の結果を心待ちにしています。また、フビは入居から10年を経過し暖房設備等のメンテナンスが必要になってきますので、検討していきたいと思います。

人員の確保については変わらず緊張感があります。扶養範囲内で働く職員の勤務時間（収入）の制限や職員の高齢化、罹患による離脱等不安が募りますが求人には反応も薄く、特に世話人の業務は朝晩という働きにくい時間帯であることから若い層の応募は期待できません。工夫を重ね協力し合いながら、生き活きと働ける職場を目指します。

## 5. 訪問系事業について

居宅介護事業は大きな変化はありませんが、サービス提供は安定しております。

今回の報酬改定では、重度障害者（児）への支援の評価が見直され、今年度も昨年度並みの収入の維持が見込まれます。ニーズに応じた専門的な支援を行うことが目的とされていることから、継続して提供体制を整備する必要があります。技術を磨きスキルを高めながら、より専門的なサービスが提供できるよう努めて参ります。

新規利用希望については度々相談がありますが、定期的な利用希望はなく、事業所の規模を考えると受け入れが難しい状況です。現在の安定したサービス提供を継続するためにも新規利用者の獲得は慎重に検討しつつ、各関係機関と連携しながら、地域のニーズに応じていきたいと思います。

ハード面では、2年間で車輛の入れ替えを完了し、自家用有償旅客運送の更新手続きも整っており、大きな計画はありません。

グループホーム入居者の利用が多いため、移動支援のサービス提供が主となりつつあり、現在はコロナ禍を乗り越えて多彩なニーズに対応しております。年齢に見合った活動、発見、挑戦を共に楽しみながら、豊かな毎日が送られるようサポートして参ります。また、生活面の支援では、利用者の高齢化が進み身体的な介助を必要とする方が増えています。希望する生活が長く続けられるようサポートしながらも、次の生活に目を向けて、一緒に検討していく必要があると感じます。

短期入所事業は、前年度に引き続きコロナウイルス感染症の影響により利用者数は少なくなっていますが、両親が亡くなり単身生活が難しくなっていた方の受け入れを行っています。緊急時の受け入れのほか、要望に合わせて利用していただけるように体制を整えていきたいと思います。今後も地域で生活されている方のセーフティネットとしての役割を果たせるように努めたいと思います。